

# 青年部 だより

## 春闘討論集会に参加して 若さと柔軟な発想を活かそう

1月14日～15日の支部2017年春闘討論集会・新春旗開きに青年部として参加しました。

どんな討論集会になるのか？意見を言えるのか？少し緊張しながらの参加でした。

集会は、樋口委員長の開会あいさつから始まり、2017年春闘方針(案)提案では、「組合費の完全スライド制」の実施について、林書記長より提案がありました。この問題については、組織維持のためには仕方がないこととは思いますが、拡大のための方策も見えてこない、退職者の補充人員の確保も難しい中、青年部としても拡大運動に積極的に取り組まなければならないと強く思いました。

### 分散会の発言に緊張感

春闘方針提案後は、3班に分かれての分散会。「労働組合としての大阪支部の役割と今後」というテーマで、1.組織拡大、2.組織力(動員力)の低下の原因、3.現在の組合費をどう考えるか？4.執行部に望む事、5.組合員に求められる行動などを話し合いました。



さまざまな意見が出る中で、自分が発言した時に反対意見が出てこないか、誰かに怒られたりするのではないかと少し怖かったです。しかし実際に発言してみると、執行部の方がたにはきちんと聴いてもらえ、話しやすいと思いました。ふだん分会員や青年部層としか話す機会がないため、とても貴重な時間であり、考えさせられる時間でした。

### 後ろ向きの意見も

気になった意見は、「勤務時間が長く、動員指示があっても行けない」、「毎回、『予定がある』などと言って、参加しない」など、後ろ向きの意見が少なからずあったように感じました。勤務時間が長い人に寝る時間も削って参加させるのか、いつも「予

定」のある人は、では、いつなら参加できるのか、どうすれば参加させられるのかなど、大変考えさせられた2時間でした。動員力の低下が組織拡大の妨げになってる面もあるのかと思い、青年部としても、若い力と柔軟な発想で、組織強化から取り組み、組織拡大の方法を模索していきます。

### 旗開きでリラックス

分散会后、午後6時から新春旗開きです。最初に、恒例の青年部による港湾労働歌の合唱、来賓のあいさつを聞いた後は歓談で、先輩方の冗談を交えた経験談で盛り上がり、楽しい時間を過ごせました。

最終日、分散会のまとめを各班の代表が報告。そして春闘方針及び分散会に対する全体討論を行い、山田副委員長の閉会あいさつの後、樋口委員長の団結ガンパローで春闘討論集会が終わりました。

初参加の青年部員も多く、先輩方の組合への取り組みについて、新しい一面を知り、刺激を受けました。今後、先輩方から闘い方を学び、どのように活動をすべきかを考えさせられた討論集会でした。

(編・青年部)

# だんけつ



発行 大阪市港区築港1-12-27  
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部  
発行責任者 國分仁昭



## 17春闘スタート!

支部2017年春闘討論集会が1月14・15日の両日、西中島のホテルクライトン新大阪で開催されました。14日夜には、全国港湾・全港湾中央で春闘日程が前倒しになったことに合わせる形で、旗開きも行われました。

春闘討論集会は99名の参加で、座長には田中法広執行委員と安永清子組合員(箕面教習所分会)の2名が選出されました。

冒頭、樋口執行委員長は「委員長という言葉にはまだ慣れないけれど、仲間の支えがあり、自信をもって春闘を闘いぬく！」とあいさつされました。

林書記長が春闘方針(案)、の具体化提案、要求額2万円と闘い方と、産別制度政策課題、組織の強化と拡大の重要性、組合費完全スライド制(案)などについて提案を行い、この提案を受けて、3班に分かれての分散会を開催しました。

### 分散会で活発な議論

分散会のテーマは、春闘の闘い方、組合費の問題、組織拡大、動員、職場の課題、執行部への要望などで、少人数のため、多数の場では遠慮して言いにくいことでも言えました。従って、約2時間の分散会では、まとめに困るほどの意見や提案が出されました。たとえばA班では、全港湾の組織を漢字1文字で表現すると、どんな漢字が思い浮かぶかというテーマに、闘、生、和、絆、仲、誠、正、結、進、海、考、支、真、同、極が出されるなど、定例の分代ではされない議論が、生き生きと行われました。

その後の全体会で出された主な意見は次のとおりです。  
・賃上げ要求額2万円は妥当  
・後補充を優先している  
・動員も仕事もセットとして分会員に徹底している  
・5割動員の指示でも集まり

が少ない時がある

- ・動員の中身が把握できない
- ・魅力的に伝わっていない
- ・分会が納得する条件闘争をしたい
- ・組合費が高い
- ・動員が多いと思うのは組合活動に係っていないから
- ・議案書など難しい文言が多くわからない
- ・ホームページの活用やポスターなど作ることが必要
- ・内部の強化が重要
- ・車両分会は分会員同士でも顔を合わすことが少ないし議論の時間もない
- ・組合費を上げて組織維持だけで拡大できるのか
- ・経済闘争、政治闘争などに係る認識が組合の原動力になる
- ・財源は活動するために必要であり、皆の力をつけるためでもある

2日目は、港湾部会、車両部会の討論集会における議論の報告の後、春闘方針に関する

る全体討論が行われ、定年延長問題、組合費完全スライド制、春闘アンケート結果、辺野古支援行動、ストレスチェックなどについて、意見が出されました。

その後、執行委員会より、「まとめ」が提案され、全体で確認しました。(別表)

最後に、山田副委員長より閉会のあいさつと樋口委員長の団結ガンパローで締めくくられました。

14日午後6時から、40名の来賓によって、旗開きが開催されました。

青年部の「港湾労働歌」合唱の後、来賓の方がたから、



辻元清美(民進党衆議院議員)



福島みずほ(社民党参議院議員)

「厳しい状況だが、新委員長と力を合わせ、闘う大阪支部を継続し、共に頑張ろう」「共謀罪などの反動立法の成立を阻止しよう」などの激励が行われ、交流を深めました。

### 大阪支部2017年春闘討論集会 まとめ

1. 支部要求額20,000円以上とする。
2. 安倍自公政権により行われてきた憲法改悪、戦争する国づくりなどに対して我々は、戦争法廃止、憲法改悪阻止、社会保障制度の充実、辺野古新基地建設反対、労働法制改悪反対、TPP条約発効阻止、これらのことを実現するために、青年たちの政治離れと無関心を克服し、野党共闘の更なる強化を求め闘います。
3. 先の福島第一原発事故や営業稼働が一度もなく度重なる事故と老朽化により廃炉が決まった「もんじゅ」など、原子力利用は決して安上がりでも安全でもない。まして人類とは共存できない原子力政策に反対し、再生エネルギーへの転換を図るよう求めます。
4. 安倍政権が行った「アベノミクス」は財政のばら撒きと株高と円安誘導で合わせて福祉の切り捨てです。今後の経済成長は見込めず、すでに破綻していますが、このことが表面化する前に解散総選挙を行うでしょう。その時には我々と考え方を共にする候補者の勝利に全力を挙げ闘います。
5. 韓国では朴槿恵大統領が公的情報の漏洩などで国民の怒りを買ひ、国民の力で事実上退陣に追い込まれました。こういった国民、韓国民主労総との国際連帯運動を強化しながら我々の運動を進めます。
6. 春闘は労働組合として大切なものです。近年マスコミなどでは「官製春闘」などというものも聞きますが、政府と一部の大手企業が進めるものではなく、我々全港湾大阪支部は大衆路線を基本に職場討議したうえで執行委員会とともに、要求実現に向けて闘います。
7. 大阪支部は全力で組織拡大強化を取り組みます。
8. 中央行動費用・組織拡大費用も含めて春闘カンパを、組合員1人3000円とし、最大限の取り組みを進めます。

2017年1月15日  
大阪支部2017年春闘討論集会



## 第10回トラックセミナー開催

# 不合理だらけのトラック業界

### 車両部会 陣内恒治

第10回トラックセミナーが1月28日、TKPガーデンシティPREMIUM心斎橋において、90名の参加で開催されました。

講演は、国土交通省自動車局貨物課が運営している「トラック運送業の適正運賃・料金検討会」の委員でもある藤井聡さん(京都大学大学院教授、内閣官房参与)から「トラック料金の課題、構造、対策」と題して話を伺いました。



以下は、その要旨です。

私は、運輸の規制については15年前から特別委員や大学で研究し、検討会の座長に選任されました。

トラック業界も、規制緩和で参入が自由化になり、業者が増加して、下層多重構造となった。その結果、ダンピングなどの価格競争激化で、大型トラック運転手の賃金は、95年頃から、全産業比を1とすると、0.89まで下がった。バス・タクシーは規制強化されてきたが、トラック産業は燃料サーチャージにしても取り組みが進んでいない。トラック運転手の賃金が下がると、労働環境も劣化し、高齢化や長時間運転が増える。また、ネット注文が送料無料、翌日配達など「過剰サービス」の横行

で、積載率が下がっていることも環境悪化の原因のひとつでもある。

本来は、デフレになると消費

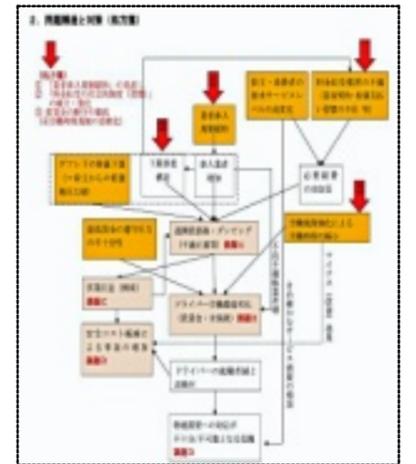


量が減り、人余りになるが、長期的なデフレは逆に人手不足になる。原因は、荷主・消費者の要求でサービスレベルの高度化が進み、少ない荷物でも運ばなければならなくなる。企業は、競争に勝つためには物を安く生産し、賃金を下げることを優先してきた。トラック業界では一部の企業だけが利益を上げているが、産業全体では大赤字で、この仕組みを変えるためには規制を強化しなければいけない。

### “悪貨が良貨を駆逐する” 過剰サービスを規制

トラック運送業の適正運賃・料金検討会では、もっと自由化を進める動きがあり、藤井教授は「トラック業界に限らず20年に及ぶデフレの継続によって、あらゆるマーケットで過剰サービス(価格以上のサービスを提供する)が横行し、これが収益を下げ、賃金を下げる根本的な背景である。こうした状況を改善するには、「過剰サービスを何らかの形で規制」していく方が必要である。そうでなければ、過剰サービスを続けられる

企業がマーケットで高い競争力を得て、結局、過剰サービスを辞めた企業、まともな企業が淘汰される」つまり悪貨が良貨を駆逐する(悪が栄え善が減る)



ということである。今すぐの規制は困難だが、最低でも運賃とは別に高速料金の上乗せや燃料サーチャージの收受は必要である。それらを支払わない企業に対しては、行政指導などの規制は必要である。

労使が協力して行政にも要求し、士気を高めるためにも学習をする必要性を訴えられた。

### 勝ち方は「負けないこと」

まとめとして、懇話会の山元事務局長は、「自由主義なのか、保護主義なのか、必要なことは規制をかけなければいけない。『自由』という言葉に騙されず企業と労働者が対等の立場で交渉し、変えていく努力をすることが必要であり、展望をもって懇話会を拡大して、ひいては産業全体を変革しよう」と訴えた。セミナー終了後、同会場に於いて懇親会も開催された。今回のセミナーには懇話会に加入していない企業も参加して意見交換と交流ができた。今後もセミナーを充実させ拡大させよう!